

HDTV アップコンバーターモジュール
SHC-70HD,-E
D1 to HD CONVERTER
取扱説明書

必ずお読みください！

ビデオトロン株式会社

この製品を安全にご使用いただくために



警告

誤った取扱いをすると死亡または重傷、火災など重大な結果を招く恐れがあります。

1、電源プラグ、コードは

- ・指定された電源電圧(AC100V 50/60Hz)以外では使用しないでください。
- ・AC 電源(室内電源)の容量を超えて機械を接続し長時間使用すると火災の原因になります。
- ・差込みは確実に。ほこりの付着やゆるみは危険です。
- ・濡れた手でプラグの抜き差しを行わないでください。
- ・抜き差しは必ずプラグを持って行ってください。コードを持って引っ張らないでください。
- ・コードは他の機器の電源ケーブルや他のケーブル等にかませないでください。
- ・コードの上に重い物を載せないでください。電源がショートし火災の原因になります。
- ・機械の取り外しや清掃時等は必ず機械の電源スイッチを OFF にしてからプラグを抜いてください。

2、本体が熱くなったら、焦げ臭いにおいがしたら

- ・すぐに電源スイッチを切ってください。ただし、電源回路上、切れない場合があります。その時は電源プラグを正しく抜いてください。機械の保護回路により電源が切れた場合、あるいはブザーによる警報音がした場合にはすぐに電源スイッチを切るか、電源プラグを抜いてください。
- ・上下に設置されている機械の電源スイッチまたはメインのブレーカーを切ってください。
- ・空調設備を確認してください。
- ・しばらく、手や体を触れないでください。ファンの停止が考えられます。設置前にファンの取り付け場所を確認しておきファンが停止していないか確認をしてください。5年に一度はファンの交換をおすすめします。
- ・機械の通風孔をふさぐような設置をしないでください。熱がこもり火災の原因になります。
- ・消火器は必ず1本マシンルームに設置し緊急の場合に取り扱えるようにしてください。
- ・弊社にすぐ連絡ください。

3、機械の近くでは飲食やタバコ、火気を取り扱うことは絶対に行わないでください。

- ・特にタバコ、火気を取り扱うと電気部品に引火し火災の原因になります。
- ・機械の近く、またはマシンルーム等の密閉された室内で可燃性ガスを使用すると引火し火災の原因になります。
- ・コーヒーやアルコール類が電気部品にかかりますと危険です。

4、修理等は、ご自分で勝手に行わないでください。

下記のあやまちにより部品が発火し火災の原因になります。

- ・部品の取り付け方法(極性の逆等)を誤ると危険です。
- ・電源が入っている時に行うと危険です。
- ・規格の異なる部品の交換は危険です。

5、その他

- ・長期に渡ってご使用にならない時は電源スイッチを切り、安全のため電源プラグを抜いてください。
 - ・重量のある機械は1人で持たないでください。最低2人でかかえてください。腰を痛めるなど、けがのもとになります。
 - ・ファンが回っている時は手でさわらないでください。必ず停止していることを確かめてから行ってください。
 - ・車載して使用する時は確実に固定してください。転倒し、けがの原因になります。
 - ・本体のラックマウントおよびラックの固定はしっかり建物に固定してください。地震などによる災害時危険です。
- また、地震の時は避難の状況によりブレーカーを切るか、火災に結び付かない適切な処置および行動を取ってください。そのためには日頃、防災対策の訓練を行っておいてください。
- ・機械内部に金属や導電性の異物を入れないでください。回路が短絡して火災の原因になります。
 - ・周辺の機材に異常が発生した場合にも本機の電源スイッチを切るか電源プラグを抜いてください。



注意

誤った取扱いをすると機械や財産の損害など重大な結果を招く恐れがあります。

1、操作卓の上では飲食やタバコは御遠慮ください。

コーヒーなどを操作器内にこぼしスイッチや部品の接触不良になります。

2、機械の持ち運びに注意してください。

落下等による衝撃は機械の故障の原因になります。

また、足元に落としたりしますと骨折等けがの原因になります。

3、フロッピーディスクやMOディスクを取り扱う製品については

- ・規格に合わないディスクの使用はドライブの故障の原因になります。
- マニュアルに記載されている規格の製品をご使用ください。
- ・長期に渡り性能を維持するために月に一回程度クリーニングキットでドライブおよびMOディスクをクリーニングしてください。
 - ・フィルターが付いている製品はフィルターの清掃を行ってください。
- 通風孔がふさがり機械の誤動作および温度上昇による火災の原因になります。
- ・強い磁場にかかる場所に置いたり近づけたりしないでください。内部データに影響を及ぼす場合があります。
 - ・湿気やほこりの多い場所での使用は避けてください。故障の原因になります。
 - ・大切なデータはバックアップを取ることをおすすめします。

●定期的なお手入れをおすすめします。

- ・ほこりや異物等の混入により接触不良や部品の故障が発生します。
- ・お手入れの際は必ず電源を切ってプラグを抜いてから行ってください。
- ・正面パネルから、または通風孔からのほこり、本体、操作器内部の異物等の清掃。
- ・ファンのほこりの清掃
- ・カードエッジコネクタタイプの基板はコネクタの清掃を一月に一度は行ってください。

また、電解コンデンサー、バッテリー他、長期使用劣化部品等は事故の原因につながります。
安心してご使用していただくために定期的な(5年に一度)オーバーホール点検をおすすめします。
期間、費用等につきましては弊社までお問い合わせください。

**上記現象以外でも故障かなと思われた場合は弊社にご連絡ください。

☆連絡先……ビデオトロン株式会社

〒193-0835 東京都八王子市千人町2-17-16

TEL 042-666-6329

FAX 042-666-6330

受付時間 8:30~17:00

E-Mail cs@videotron.co.jp

◎土曜・日曜・祝祭日の連絡先

留守番電話 042-666-6311

緊急時 ** 090-3230-3507

受付時間 9:00~17:00

**携帯電話の為、通話に障害を起こす場合がありますので、あらかじめご了承ください。

..... 目 次

この製品を安全にご使用いただくために.....	I
1. 概 説.....	1
《特 長》.....	1
2. 機能チェックと筐体への取り付け.....	2
1. 構 成.....	2
2. 棚板への取り付け.....	2
3. POWER ON までの手順.....	2
4. 基本動作チェック.....	3
3. 各部の名称と働き.....	4
4. 操作方法.....	6
1. 基本操作.....	6
2. 各機能の説明.....	7
5. トラブルシューティング.....	9
6. 仕 様.....	10
1. 定 格.....	10
2. 性 能.....	10
3. 機 能.....	11
7. 外形寸法.....	12
8. 系統図.....	13
9. 出力位相.....	14

1. 概 説

SHC-70HDはSD-SDI信号から、HD-SDI信号へフォーマット変換するHD-TV アップコンバーターモジュールです。SD-SDI信号の代わりにHD-SDI信号が入力されてもHD-SDI信号を出力するバイパス機能があり、HD/SD混在システムを容易に構築できます。更に外部リファレンス入力にも対応しており、非同期のSD-SDIのカメラ等をHDのシステムに接続する時にご活用いただけます。

実装筐体を選ぶことで単体から10 モジュールまでシステムに合わせた対応ができます。

《特 長》

- ・入力信号は、525i/59.94及び1080i/59.94のシリアルデジタル信号
1080i/59.94のシリアルデジタル信号が入力された時は無変換で出力
- ・出力信号はSMPTE292Mに準じた1080i/59.94のHD-SDI信号
- ・三種類のアスペクト変換(スクイーズ、サイドパネル、エッジクロップ)が可能
- ・水平方向の輪郭補正が可能(メニュー設定で32段階の調整可)
- ・非同期の入力信号をREF信号に同期させることが可能
- ・エンベデッドオーディオ(20bit/48kHz 8ch)に対応 ※1、※2、※3、※4
- ・入力信号のモニター出力が可能
- ・パネル正面のLED表示部及びオンスクリーンメニューで各種の設定が可能
- ・同一筐体内の複数のモジュールで、一部の設定を連動させることが可能
- ・同一筐体内で複数のSHC-70HDを使用するときリファレンス信号を内部バスで他のモジュールに分配する機能搭載 ※5
- ・70シリーズ筐体を使用し2U高さで10chまで、1U高さフルサイズで4ch、1U高さハーフサイズで1chを実装可能

※1 SHC-70HD-Eのみ対応。HD-SDI信号を入力した時は24bit/48kHzの音声に対応します。

※2 リファレンス信号を入力した場合はリファレンス信号に同期します。

※3 エンベデッドオーディオは内部でリサンプリング処理を行っています。

※4 エンベデッドオーディオ以外のアンシラリデータは全て削除されます。

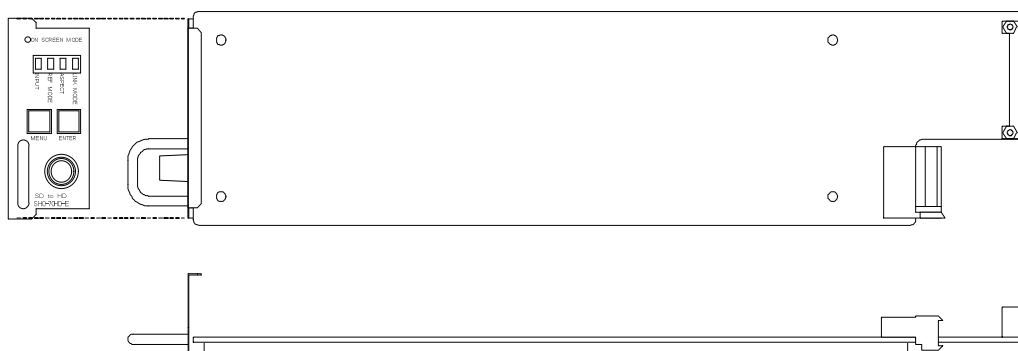
※5 同一筐体内に、他のコントローラー系モジュール(TLG-70C、VT-70C等)が存在する場合、この機能は使用できません。

2. 機能チェックと筐体への取り付け

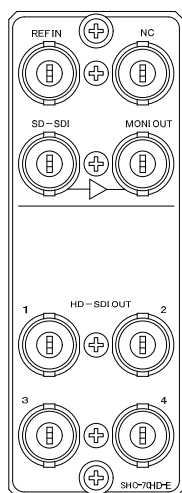
1. 構成

番号	品名	型名・規格	数量	記事
1	ダウンコンバーターモジュール	SHC-70HD(-E)	1	
2	コネクタモジュール		1	
3	取扱説明書		1	本書

1. メインモジュール



2. コネクタモジュール



2. 棚板への取り付け

ご使用の際には、コネクタモジュール及びメインモジュールを棚板に取り付けてください。棚板はVbus-70Bシリーズのいずれにも対応します。ただし実装方法については「Vbus-70Bシリーズ取扱説明書」を参照して下さい

3. POWER ON までの手順

- (1)コネクタモジュール及びメインモジュールを筐体へ正しくセットします。
- (2)筐体の電源プラグをAC100Vのコンセントに接続します。
- (3)SDI INに本線映像信号を入力します。
- (4)HD-SDI OUTからの出力をモニターなどに接続します。
- (5)筐体の電源スイッチを投入すると、筐体のパワーランプ及びメインモジュールのモード表示ランプが点灯します。

4. 基本動作チェック

下記の操作で本機が正常に動作していることをチェックします。

正常に動作しない場合はP-9「5. トラブルシューティング」を参照してください。

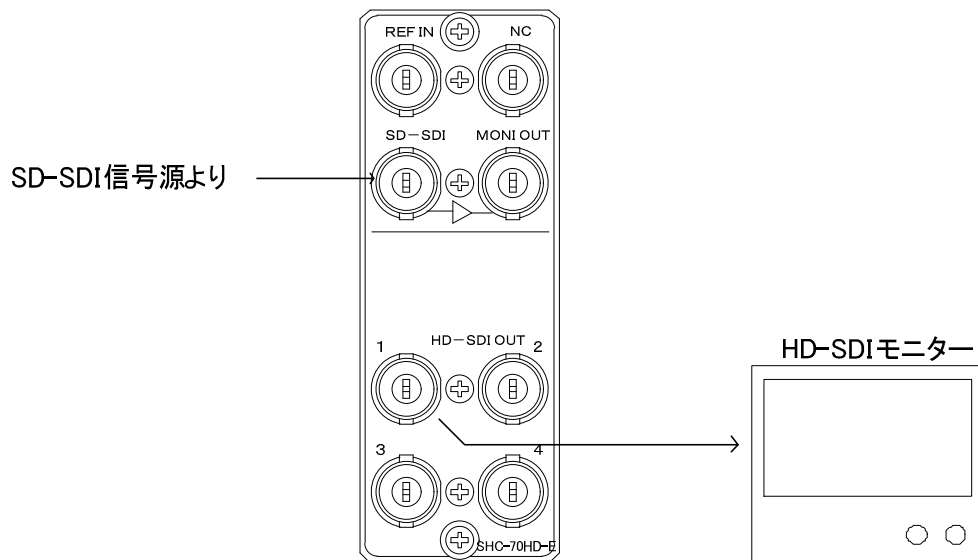


図2-7 基本動作チェック

- (1) SDI INコネクタにSD-SDI信号(垂直周波数59.94Hzの525i)を入力します。
- (2) HD-SDI OUTコネクタの出力信号をHDモニターに入力します。
- (3) モニターに、入力された映像が表示されていることを確認します。

3. 各部の名称と働き

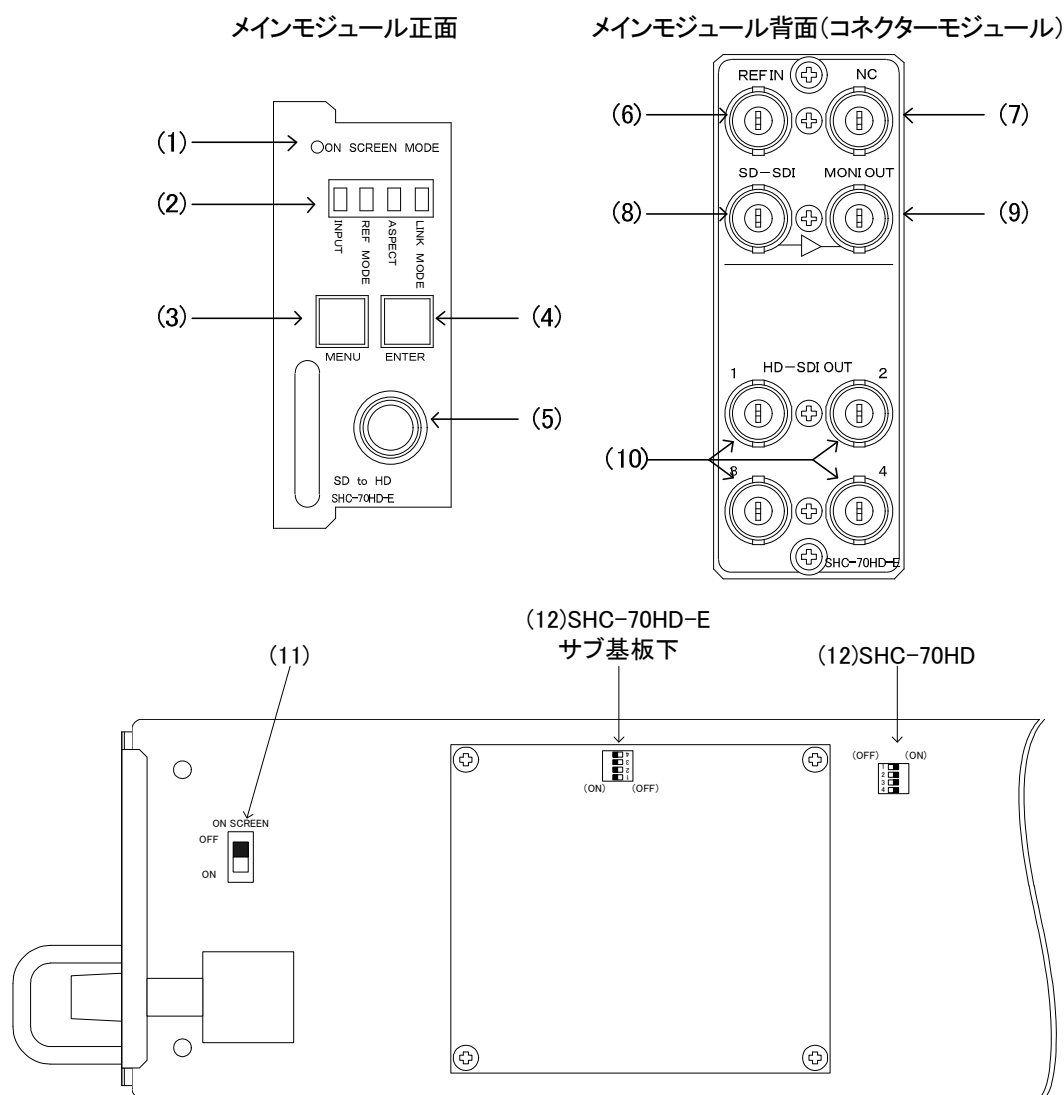


図3-1 各部の名称と働き

(1) ON SCREENランプ

オンスクリーンメニュー表示がされているときに橙点灯します。オンスクリーンメニュースタンバイ状態のときは緑点灯します。ON SCREEN設定スイッチがOFFの時には消灯します。

(2) 表示器

ステータスや、各種設定メニューが表示されます。

(3) MENUボタン

各種設定を行うときに、メニューモードへ切り替えます。

(4) ENTERボタン

各種設定を行うときに決定します。

(5) 選択ツマミ

各種設定を行うときに選択します。

(6) REF IN

BBS信号を入力します。

(7) NC

何も接続しません。

(8) SDI IN

SD-SDIまたはHD-SDI信号を入力します。

(9) MONI OUT

SDI INに入力された信号がバッファ出力されます。

(10) HD-SDI OUT

HD-SDI信号を出力します。

(11) ON SCREEN設定スイッチ

オンスクリーンメニューの有効/無効を設定します。

(12) ディップスイッチ



(モジュール正面を左側にしたとき)

1). DIP1 バス間通信有効/無効

SHC-70HD、-Eは、筐体内部の通信バスを使用し、コントロールデータを通信しています。

SHC-70C以外のコントローラ系モジュールが同一筐体内に存在するときは、バスの競合を避けるためにこのスイッチをONに設定してください。

この場合でも、REFERENCE MODEのEXT MASTER およびEXT SUBIは使用できますが、MASTERの自動排他機能が働きませんので、他のモジュールとMASTERが衝突しないようご注意の上リファレンスモードを設定してください。

DIP1	バス間通信
OFF	バス間通信有効
ON	バス間通信無効

2). DIP2 オーディオ遅延時間

オーディオの遅延時間を設定します。(SHC-70HDでは未使用)

DIP2	オーディオ遅延時間
OFF	1Frame(33ms)
ON	1.5Frame(50ms)

DIP3,4は未使用です。

4. 操作方法

1. 基本操作

1) 電源投入直後は、モジュール前面の表示器には現在のステータスが表示されています。ステータスの意味は以下の通りです。

ASPECT【ASPE】	“SQEZ”=SQUEEZE, “EDGE”=EDGE CROP, “SIDE”=SIDE PANEL
ENHANCE【ENHN】	“ENHN”=0~31
REFERENCE SELECT【REFS】	“LDIR”=LINE DIRECT, “EDIR”=EXT DIRECT “EMST”=EXT MASTER, “ESUB”=EXT SUB
V PHASE OFFSET【VPHS】	“VPHS”=0~1124
H PHASE OFFSET【HPHS】	“HPHS”=0~2199
LINK MODE【LINK】	“STND”=STAND ALONE, “LINK”=LINK

2) モジュール前面のMENUボタンを押すことで、表示器がメニューモードになります。

このとき2秒以上MENUボタンを押し続けると、オンスクリーン表示されます。(オンスクリーン設定スイッチがONになっている場合のみ)表示器には、カーソルで選択されている項目が略して表示されます。(表4-1参照)

3) カーソルが左の項(図4-1[1])にある状態でツマミを廻し、設定する項目を選択します。

4) ENTERボタンを押すとカーソルが右の項(図4-1[2])へ移動し、ツマミを廻して値を変更します。

5) 設定を保存する場合はENTERボタンを押します。また、変更をキャンセルする場合は、MENUボタンを押すことにより設定値は変更前の値に戻ります。いずれの場合も、カーソルが左の項へ移動します。

6) さらに他項目の設定を行う場合は3)~5)を繰り返し行います。

7) 終了する場合はMENUボタンを押すことで1)の状態に戻ります。

8) メニューモードの状態で10分間未操作状態が続くと、設定をキャンセルし、ステータス表示へ戻ります。

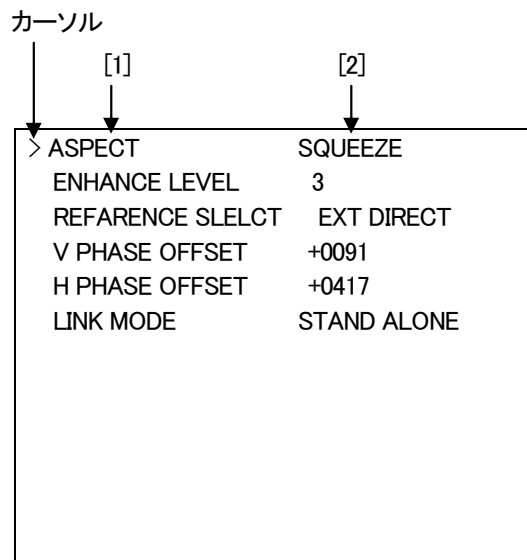


図 4-1 オンスクリーンメニュー表示

MENU

ASPECT 【ASPE】	出力映像の縦横比を設定します。(ただし、HD入力時は機能しません)
├── SQUEEZE 【SQEZ】	4:3映像を横方向に引き伸ばし、16:9にします。
├── EDGE CROP 【EDGE】	縦横を等倍率で引き伸ばし、横方向の幅をあわせ、上下を切り取ります。
└── SIDE PANEL 【SIDE】	縦横を等倍率で引き伸ばし、縦方向の幅をあわせ、左右を黒く塗ります。
ENHANCE 【ENHN】	エンハンス(高域強調)の度合いを設定します。数値が大きいほどシャープな映像が得られます。0のときは、エンハンス機能はOFFです。
└── 0～31	
REFERENCE SELECT 【REFS】	リファレンス信号を選択します。
├── LINE DIRECT【LDIR】	LINE信号に同期し、リファレンス信号を分配しません。
├── EXT DIRECT【EDIR】	BBS信号に同期し、リファレンス信号を分配しません。
├── EXT MASTER【MAST】	BBS信号に同期し、リファレンス信号を筐体内のバスに出力します。
└── EXT SUB【ESUB】	リファレンス信号を筐体内のバスから受信します。
V PHASE OFFSET 【VPHS】	リファレンス位相を1LINE単位で調整できます。(0～1124)
└── 0～1124	
H PHASE OFFSET 【HPHS】	リファレンス位相を13.5ns単位で調整できます。(0～2199)
└── 0～2199	
LINK MODE 【LINK】	同一筐体内のSHC-70HD-AEの同期設定
├── STAND ALONE【STND】	単独で動作します。
└── LINK【LINK】	同一筐体内のLINKに設定されているモジュールは、ASPECTおよびENHANCEの設定が連動します。 ※1参照

※1 LINK設定にした時に、既にLINK設定のモジュールの設定に連動します。
ASPECT、ENHANCEの設定以外は個別に設定する必要があります。

表4-1 操作メニュー一覧

2. 各機能の説明

1) ASPECT

出力映像の縦横比を設定します。(ただし、HD入力時は機能しません)

SQUEEZE: 4:3映像を横方向に引き伸ばし、16:9にします。

EDGE CROP: 縦横を等倍率で引き伸ばし、横方向の幅を合わせて、上下を切り取ります。

SIDE PANEL: 縦横を等倍率で引き伸ばし、縦方向の幅を合わせて、左右を黒く塗ります。

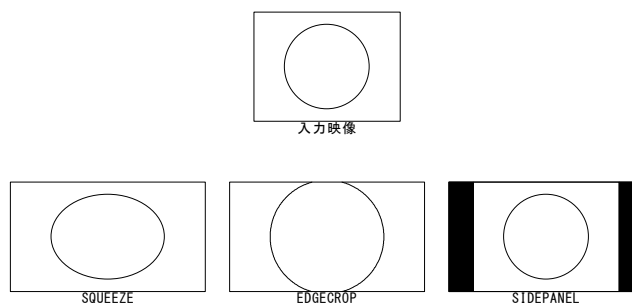


図4-2 ASPECT設定

2) ENHANCE LEVEL

エンハンス(高域強調)の度合いを設定します。

数値が大きいほどシャープな映像が得られます。

0～31の範囲で設定できます。設定値が0のときは、エンハンス機能はOFFです。

3) REFERENCE SELECT

出力映像のリファレンスを選択します。同一筐体内にREF信号を供給する“REF MASTER”の機器が存在する場合、本機の設定をMASTERにしないでください。

LINE DIRECT

LINE信号に同期し、リファレンス信号を分配しません。

EXT DIRECT

BBS信号に同期し、リファレンス信号を分配しません。

EXT MASTER

BBS信号に同期し、リファレンス信号を筐体内のバスに出力します。

EXT SUB

リファレンス信号を筐体内のバスから受信します。

4) V PHASE OFFSET

出力の位相をリファレンス信号に対し1LINE単位で調整できます。(0~1124)

5) H PHASE OFFSET

出力の位相をリファレンス信号に対し13.5ns単位で調整できます。(0~2199)

6) LINK MODE

LINK

同一筐体内のLINKに設定されているモジュールは、ASPECTおよびENHANCEの設定が連動します。

電源投入時はスロットのナンバの若いモジュール(左より)の設定が優先され、他のLINK設定のモジュールへ設定内容がコピーされます。また、電源投入後にLINKの設定を変更した場合、後からLINKの設定にしたモジュールはスロットナンバに関係なく、既存のLINK設定の値が反映されます。

**筐体内に、他のコントローラ系モジュールが存在する場合は通信バスが競合するため、LINKモードは使用できません。

STAND ALONE

LINK機能を使用せず、単独で動作します。

5. トラブルシューティング

トラブルが発生した場合の対処法です。(文中の→は対処方法を示しています)

筐体のトラブルに関しては、筐体の取扱説明書もあわせてご覧ください。

現象 電源が入らない！

原因 ・筐体の電源ケーブルは接続されていますか？
・筐体の電源スイッチはON側になっていますか？

現象 まったく動作しない！

原因 ・筐体の電源ケーブルは接続されていますか？
・筐体の電源スイッチはON側になっていますか？
・メインモジュール(基板)は正しく挿入されていますか？

現象 映像がまったく表示されない！

原因 ・映像信号「59.94Hz、1080iシリアルデジタル信号」が正しく入力されていますか？
出力はD1モニターに正しく接続されていますか？
・コネクタモジュールはSHC-70HD用ですか？
入力ケーブルがNCコネクタ側につながっていませんか？
→P4 各部の名称と働きを参考にして、コネクタとケーブルが正確に接続されているかご確認ください。

現象 映像が正しく表示されない！

原因 ・映像信号「59.94Hz、1080iシリアルデジタル信号」が正しく入力されていますか？
出力はHDモニターに正しく接続されていますか？
・アスペクト比は正確に設定されていますか？
→P6 操作方法を参考にして、アスペクト比を切り替えてください。

6. 仕様

1. 定格

入力信号

・SDI IN	SMPTE292M、SMPTE259M-C準拠、0.8V _{p-p} ±10%/75Ω、BNC 1系統
・REF IN	BBS、0.43V _{p-p} /75Ω、BNC 1系統

出力信号

・HD-SDI OUT1~4	SMPTE292M準拠、0.8V _{p-p} /75Ω、BNC 各1系統
・MONI OUT	SMPTE292M、SMPTE259M-C準拠、0.8V _{p-p} /75Ω、BNC 1系統

動作温度 0~40°C

動作湿度 20~80%RH(ただし結露なき事)

消費電力 13VA (5V,2.6A)

2. 性能

入力特性

・SDI IN

分解能	10bit
サンプリング周波数	HD: 74.18MHz、SD: 13.5MHz
イコライザー特性	HD: 100m/5CFB、SD: 300m/5C2V
反射減衰量	HD: 5 MHz~742.5 MHz、15 dB 以上 HD: 742.5 MHz~1.485 GHz、10 dB 以上 SD: 5 MHz~270MHz、15 dB 以上

出力特性

・HD-SDI OUT

分解能	10bit
サンプリング周波数	74.18MHz
信号振幅	0.8V _{p-p} ±10%/75Ω
反射減衰量	5 MHz~742.5 MHz、15 dB 以上 742.5 MHz~1.485 GHz、10 dB 以上
立ち上がり/立ち下がり時間	270ps 以下(20%~80%間)
オーバーシュート	10%以下
DCオフセット	0V±0.5V
ジッター特性	
アライメント	0.2UI
タイミング	1.0UI
入出力遅延	リファレンス信号無し 1FRAME リファレンス信号有り 1FRAME -99~+1026LINE

※リファレンス信号と入力映像の位相により可変します。詳細は出力位相図を参照してください。

・MONI OUT

分解能	10bit
サンプリング周波数	HD: 74.18MHz、SD: 13.5MHz
信号振幅	0.8V _{p-p} ±10%/75Ω
反射減衰量	HD: 5 MHz~74.25 MHz、15 dB 以上 HD: 74.25 MHz~1.485 GHz、10 dB 以上 SD: 5 MHz~270MHz、15 dB 以上
立ち上がり/立ち下がり時間	HD: 270ps 以下(20%~80%間) SD: 0.4ns~1.5ns(20%~80%間)
オーバーシュート	10%以下
DCオフセット	0V±0.5V
ジッター特性	
アライメント	0.2UI
タイミング	HD: 1.0UI、SD: 0.2UI

・エンベデッドオーディオ

分解能

20bit

サンプリング周波数

48kHz

入出力遅延

1ms 以下/約 33ms

※映像の シンクロナイズモードに応じて自動切り替え

3. 機能

◇アスペクト比変換

・スクイーズ

・エッジクロップ

・レターボックス

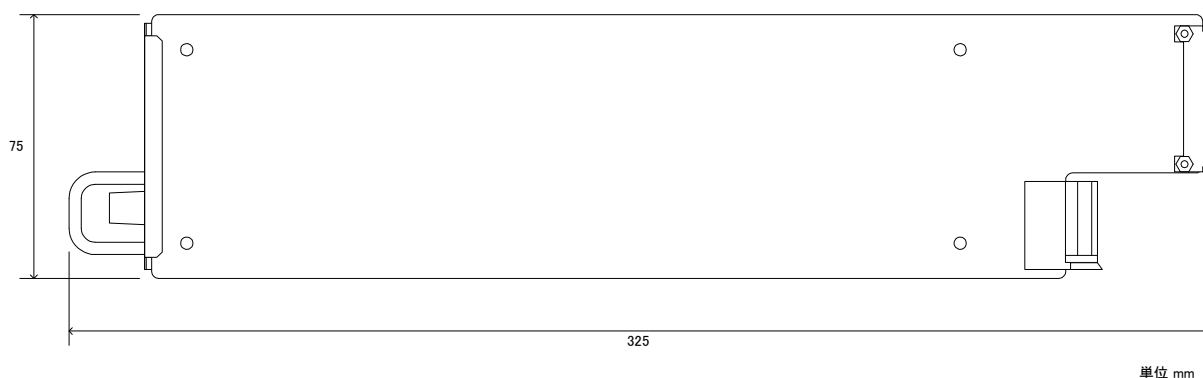
◇エンハンス

32段階

7. 外形寸法

◇メインモジュール外形寸法

・325(L)×75(H) 227g (コネクターモジュールを除く)



◇実装棚板名／実装可能モジュール数／実装棚板寸法／質量

・Vbus-70B 10 480(W)×88(H)×350(D) 6kg (電源2重化対応)

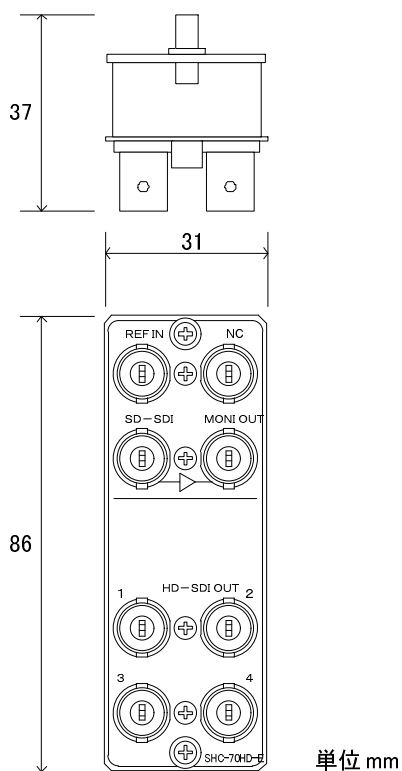
・Vbus-71B 1 200(W)×44(H)×350(D) 2kg

・Vbus-74B 4 480(W)×44(H)×350(D) 4.5kg

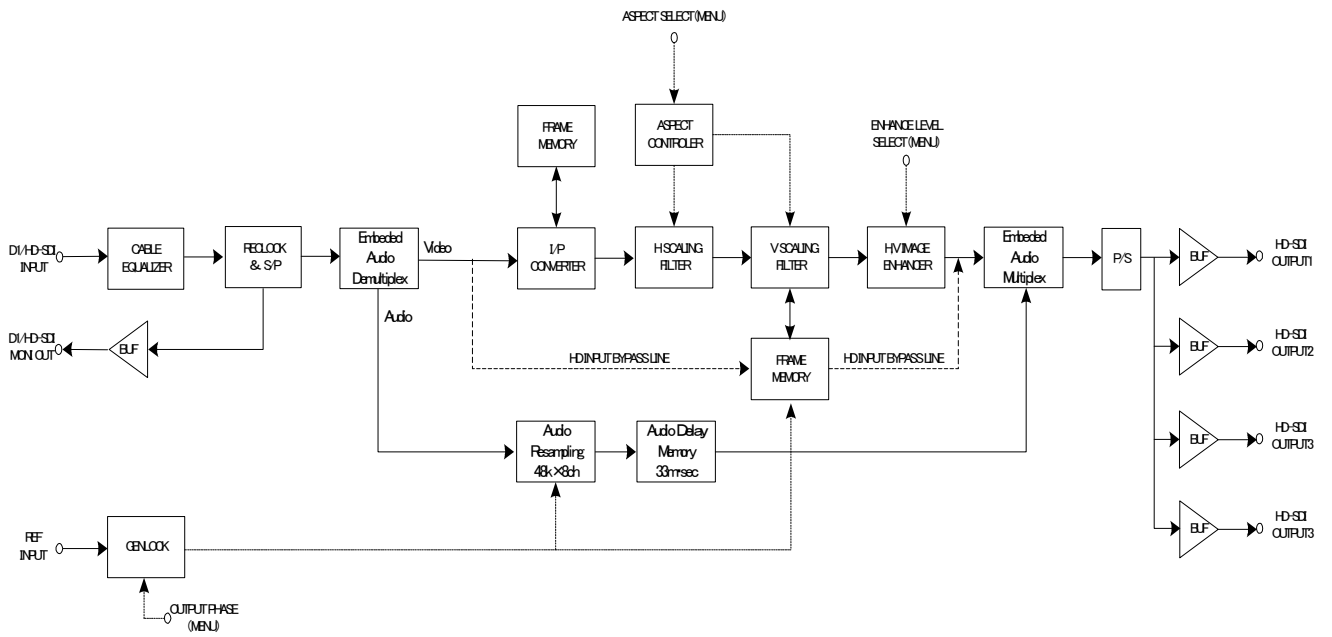
単位:mm

◇コネクターモジュール外形寸法

・31(W)×86(H)×37(D) 110g



8. 系統図

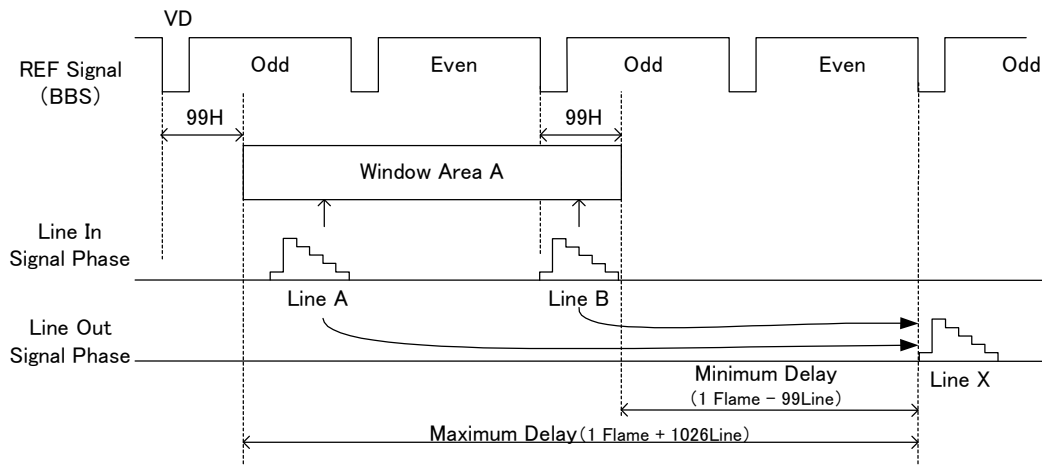


9. 出力位相

SHC-70HDは外部リファレンス機能があり、非同期のライン信号入力にも対応しています。

外部リファレンス信号を使用しない時はインプットロックで動作し、出力信号は1フレーム遅延でライン信号と同相で出力されます。外部リファレンス信号を入力した時は、リファレンス信号とライン信号の位相関係により変動し、最小遅延は1Frame-99Line、最大遅延は1Frame+1026Lineです。

下図は外部リファレンス信号を入力した時の位相図です。



上図のWindow Area A内にある入力信号はLine Xの位相で出力されます。通常、外部リファレンス信号と同相のライン信号を入力した場合、1フレーム遅延で出力されます。90Hアドバンスした外部リファレンス信号を入力すれば、1Frame-90Hの遅延でHD信号が出力されますので、HD/SD混在のシステムで有用です。

また、SHC-70HDは出力位相をH,V自由に可変する機能を有しており、アドバンスした外部リファレンス信号が用意できない時は、SHC-70HDの出力設定を+1035H(1125-90H)にすることで出力位相を90H早めることができます。ただし、出力位相を可変した場合、可変した分だけ上図のWindow Area Aが可変しますので注意してください。つまり出力位相の可変機能は擬似的に入力した外部リファレンス信号の位相を可変していることと同じです。

御使用各位 殿

ビデオトロン株式会社
製造技術部

緊急時の連絡先について

日頃は、当社の製品をご使用賜わりまして誠にありがとうございます。
ご使用中の製品が故障する等の緊急時には、下記のところへご連絡いただければ
適切な処置を取りますので宜しくお願い申し上げます。

記

◎営業日の連絡先

ビデオトロン株式会社

製造技術部

〒193-0835 東京都八王子市千人町2-17-16

TEL 042-666-6329

FAX 042-666-6330

受付時間 8:30~17:00

e-mail: cs@videotron.co.jp

◎土曜・日曜・祝祭日の連絡先

留守番電話 042-666-6311

緊急時 090-3230-3507

受付時間 9:00~17:00

※携帯電話の為、通話に障害を起す場合がありますので、あらかじめご了承願います。

無断転写禁止

- ・このファイルの著作権はビデオトロン株式会社にあります。
- ・このファイルに含まれる文書および図版の流用を禁止します。